

令和7年度 総社小学校 学校評価資料

学校経営目標	具体的計画	自己評価(中間)				自己評価(最終)				学校関係者評価
		令和7年度の達成基準	主な取組	達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 心の教育の充実	【やさしい子】 ①道徳教育、人権教育、総社っ子応援プロジェクトの取組を充実することにより、児童同士の絆や思いやりの心を育て、長期欠席・不登校やいじめの未然防止に努める。 ②「すきだ総社小学校運動」すんで挨拶、きちんと歩行、だまて掃除を推進するとともに愛校心を育てる。 (総社を愛す子供)(心優しい子供)(礼儀正しい子供)	①思いやりの心をもって生活しているという回答が85ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【人間関係・特別支援教育】 ②進んであいさつができていたという回答が85ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【人間関係・特別支援教育】	・児童同士の絆を深められるよう、道徳教育やくすの葉の取組等を継続していくようにする。	○周りの人への優しさ 児童:86.5p ○周りの人の優しさ 児童:87.1p ○思いやり 保護者:85.0p 教職員:92.8p	A	委員会からの呼びかけで、くすの葉活動が活発に行われている。9月から道徳教育やくすの葉の取組等を継続していく。また、協同学習を授業の中で積極的に取り入れ、児童同士の結びつきを強めるようにしていく。	○周りの人への優しさ 児童:87.1p ○周りの人の優しさ 児童:88.4p ○思いやり 保護者:84.5p 教職員:94.8p	B	・年度初めの時よりも周りの人に優しくしたり、優しくされたりしていると感じる児童が多くなっている。日々の取り組みが成果を上げていると考える。友達の良いところを自発的にくすの葉に書いている児童も多く見られた。今後も道徳教育に力を入れたり、協同学習を授業の中でしっかり取り入れたりして、相手を思いやり、お互いを認めあえる集団になるようにしたい。	自己評価は「B」であるが「A」が妥当である。児童、教職員の評価が昨年度末及び今年度中間期よりも向上しており、道徳教育やくすの葉活動など継続した取り組みの成果がでていることが評価できる。今後も継続した取り組みを期待したい。
	③健康教育、特別活動を充実することにより、児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。総社東中学校ブロックの学校園と連携し、メディアコントロールの取組を推進する。 ④目標をもって主体的に体力づくりに取り組み、体力の向上を図るとともに最後まで粘り強く頑張る態度を育てる。	③感染症対策として手洗い、換気を行っているという回答が85ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】 ④睡眠とメディアコントロールを中心に、基本的な生活習慣が身に付くよう取り組んでいるという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】	・引き続き、委員会を中心に手洗い励行の取組を行い、感染症予防に努める。また、校内全体で換気に対する意識を高めるために、朝の放送で「手洗い・換気」の声掛けを入れて放送する。 ・本年度も児童用タブレットを使用して結果を集計していくことで、児童の生活習慣の改善に生かせるようにする。 ・家庭へのフィードバックについても、「すぐー」等を活用して行い、減メディアや上手なメディアとの付き合い方への意識向上が図れるようにする。	児童:89.1p 保護者:90.2p 教職員:84.7p 児童:88.9p 保護者:80.4p 教職員:85.7p	B	・委員会や朝の放送での声掛けで、手洗いや換気の意識を高めることができています。今後も続けていく。 ・児童や保護者の回答がポイントが高いが、教職員のポイントが低くなっている。全くやっていない学級はないと思われるので、いつ、どの程度できていれば「行っている」と言えるのか、基準を共通理解することも検討していく。	児童:89.1p 保護者:90.1p 教職員:90.8p 児童:88.3p 保護者:79.2p 教職員:85.8p	A	・児童・保護者・教職員ともポイントが高く、手洗いや換気を意識できています。引き続き、朝の放送での声掛けや、委員会活動での意識づけを続けていき、感染症予防に努めたい。 ・保護者の評価が低く、特に学年が上がるとつれて否定的な回答が増えている。また、児童の評価は高いが、本当に実態と合っているのかは疑問である。メディアコントロール週間を活用して、週間の開始時には意識して過ごすよう保護者に「すぐー」で伝えたり、これまで通り結果をフィードバックしたりしていくようにしたい。学級懇談等で直接伝える機会もつくる。 ・学校保健委員会がメディアコントロールや生活習慣について扱うことも考える。	自己評価は適切である。教職員の中間期の改善策が成果としてできていることが窺え、評価することができる。今後の取り組みにも期待したい。
2 健康・体力づくりの推進	⑤自分から進んで運動しているという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【保健安全】	・本年度も年間を通して、チャレンジランキングに参加し、体力の向上に努める。また、取組状況を掲示や校内放送等で知らせ、児童の運動意欲の向上に努める。 ・家庭でも声掛けを行ってもらうよう、学級の実態に応じて、通信や懇談などで働きかける。	児童:83.1p 保護者:79.5p 教職員:86.6p	B	・保護者保護者のポイントが低くなっている。今年度の夏も暑すぎたことや、保護者が児童の全てを見られないことも要因の一つと考えられる。メディアコントロールカードの「運動」の欄をもっと活用したり、保護者に向けて「体力づくり」に関する発信を行ったりしていく。	児童:83.5p 保護者:80.2p 教職員:84.9p	A	・チャレンジランキングや学級遊びなど、運動する機会を作ることができた。今後は委員会がチャレンジランキングだけでなく、様々な運動を紹介したり、運動の場を提供したりすることもしていきたい。 ・進んで運動している児童が多い一方で、あまり外へ出ず室内で過ごす児童もおり、二極化が見られる。上記の委員会での活動や、体育の授業をより一層充実させることを通じて、運動に親しむ態度を育成していきたい。	自己評価は適切である。中間期で検討いただいた改善策の取り組みによる成果がでていることが窺え、評価することができる。さらに、児童の運動への態度の二極化に着目し、対応を検討していることも評価することができる。今後の継続した取り組みに期待したい。	
	⑥自分の考えや振り返りを書いているという回答が85ポイント以上である。 (児童・教職員) 【学力向上】 ⑦朝学習や総小チャレンジタイム、家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着を目指す。 ⑧家庭で10分×学年+10分勉強しているという回答が80ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員) 【学力向上】	⑥学年団で、振り返りの視点を再度確認し、授業で必ず確認をしていく。 ・振り返りの視点は、各学年相応の振り返りを書けるように指導を徹底していく。学習後の振り返りにより、学習をより定着していく。 ⑦国語と算数の単元テストの正答率8割以上の児童が、(低学年80%、中学年75%、高学年70%)80ポイント以上である。 (児童・教職員) 【学力向上】 ⑧年間、宿題の出し方や出す量、現在の子どもの様子情報を共有し、差がないようにする。 ・ナイスノートの掲示をして、自主学習のやり方も高みを目指すようにする。	・学年団で、振り返りの視点を再度確認し、授業で必ず確認をしていく。 ・振り返りの視点は、各学年相応の振り返りを書けるように指導を徹底していく。学習後の振り返りにより、学習をより定着していく。 ・各学年から、単元テストの結果をもとに様子を聞き取ったところ、特に算数で、前学年での取りこぼしが響き、悪循環となっていることが分かった。その学年ごとに必ず身に付けなければならぬこと(基礎基本)を確認した。それを朝学習の時間で徹底する。朝学習の時間は、丸付けを主にボランティアの方にお願ひし、個別に指導をしたい児童には担任が付き、15分間を学力の底上げに有効活用する。 ・学年で単元前や単元中に学習の進め方について相談する時間を設け、指導方法についても共通理解をしていく。 ・毎年、保護者のポイントが低い結果となっている。毎日のがんばりカードを有効活用し、保護者に協力を仰ぎたい。保護者を巻き込んだ家庭学習の出し方を各学年工夫する。 ・くすの葉ホールに掲示している自主学習の掲示は引き続き行うが、教室にも自主学習ノートや宿題ノートなどの掲示をして、参観日には保護者の目に触れるようにする。	児童:87.9p 教職員:92.1p 教職員:79.0p 児童:84.9p 保護者:75.7p 教職員:83.6p	A	・職員・児童ともに振り返りを書いているとの回答が85ポイントを超えている。引き続き振り返りの視点を示して書くことで、学習を深めることができるようにする。また、教員は、振り返りの内容を丁寧に見取り、次の学習へつなげるようにしていく。 ・各学年から、単元テストの結果をもとに様子を聞き取ったところ、特に算数で、前学年での取りこぼしが響き、悪循環となっていることが分かった。その学年ごとに必ず身に付けなければならぬこと(基礎基本)を確認した。それを朝学習の時間で徹底する。朝学習の時間は、丸付けを主にボランティアの方にお願ひし、個別に指導をしたい児童には担任が付き、15分間を学力の底上げに有効活用する。 ・学年で単元前や単元中に学習の進め方について相談する時間を設け、指導方法についても共通理解をしていく。	児童:87.8p 教職員:91.8p 教職員:87.0p 児童:85.7p 保護者:74.8p 教職員:86.0p	A	・職員・児童ともに意識が高く、継続して振り返りを書くことはできている。どの学年もきちんと書けており、継続できている。引き続き、学びを確かなものにするために、振り返りを書くことを継続していく。 ・振り返りの視点はどの学年も活用している。掲示を継続していく。 ・学年で共通理解をして取り組むことができた。各学年底上げを必死に行った。各学年で漢字カップに取り組んだり、それに向けて子どもたちのやる気上げるための工夫も行った。教員の仕掛けや熱量が大きな支援となる。今後も工夫を続けながら、やる気が継続するようにしていく。 ・全体の学力としては上がったが、詳しく見ていくと学級間差がある教科もある。特に算数では、できるかできないかが顕著である。低学年では他学級や総務の先生にも協力を仰いで基礎基本の学習に取り組んだ。また、朝学で実施することにより、ぼんた点がはっきりして、余剰の時間で定着を図ることができるので朝学をしっかりと活用していく。	自己評価は適切である。児童・教職員とも昨年度より引き続き達成基準に達しており、書く活動の定着が窺え評価することができる。今後の継続した取り組みにも期待したい。
3 確かな学力の育成	⑨学校から積極的に情報発信が行われているという回答が85ポイント以上である。 (保護者・教職員) ⑩安心・安全な学校生活を送るために、学校内外の安全確保の取組を行っているという回答が90ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員)	・ホームページや学校だより、学級通信、すぐー等で学校や学級での子どもの様子をより積極的に情報発信できるようにする。 ・ホームページの更新が短期的にできるように、掲載内容について計画を立てるようにする。 ・学校支援ボランティアと協力して、登校は校長と生徒指導担当が自転車で見回り、下校は曜日ごとに担当学年が下校指導を継続して行う。 ・毎朝、校内放送で副校長が安心・安全な学校生活を送るように声掛けを継続する。 ・「地区協議会」の学校行事(交通安全)への参加。 ・児童の委員会活動で意識の高揚を図る。	保護者:86.0p 教職員:85.0p 児童:89.4p 保護者:88.2p 教職員:90.2p	A	・学校だより、学級通信で子どもの様子を発信している。 ・ホームページの担当が各学年団に声を掛け、ホームページの更新が短期的にできるようになってきている。今後は掲載内容の計画を立てるようにする。 ・児童の委員会活動で安全な学校生活を送るために、当番で声掛けをしたりポスターを作成したりしている。 ・下校後も安全な生活を送ることができるよう児童や保護者の意識を高める呼び掛けをしていく。	保護者:85.0p 教職員:86.4p 児童:89.0p 保護者:87.8p 教職員:93.5p	A	・学校だよりは月に2〜3号、学年だよりは毎月、学級だよりは学級によって差があるが12月までで平均18号(多い学級は149号)を紙媒体で発行し児童や保護者、学校だよりについては評議員や学校支援ボランティアに宛てて子どもの様子を発信している。 ・ホームページでも学校や学年の出来事更新している。来年度に向けて、計画的な更新を目指して計画中有る。 ・積極的な生徒指導を行うために登下校の指導を継続的にやっている。また、学校支援ボランティアの熱心な活動にも支えられて、登下校での大きな事故はない。 ・教職員からの指導だけでなく、廊下歩行や休み時間の安全な生活について、児童会の働きかけにより改善しようとしている。 ・校内ルールやいじめ防止基本方針等もホームページに掲載して、学校での安全確保の方針について発信している。 ・年度更新が必要な事柄について失念することなくできるように引き継ぎをしたい。	自己評価は適切である。地域と連携したきめ細やかな取り組みについて評価することができる。また、これらの取り組みを保護者と共有することができるような方策についても検討していただきたい。さらに、児童が自ら課題意識をもち、課題改善のための主体的な活動につながる取り組みを期待したい。	
	⑦各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開等により、積極的に情報を発信する。 ⑧きらめきEASTの幼稚園、小・中学校や家庭・地域・関係機関等との連携を深め、児童の健やかな成長を図る。	⑨学校から積極的に情報発信が行われているという回答が85ポイント以上である。 (保護者・教職員) ⑩安心・安全な学校生活を送るために、学校内外の安全確保の取組を行っているという回答が90ポイント以上である。 (児童・保護者・教職員)	・ホームページや学校だより、学級通信、すぐー等で学校や学級での子どもの様子をより積極的に情報発信できるようにする。 ・ホームページの更新が短期的にできるように、掲載内容について計画を立てるようにする。 ・学校支援ボランティアと協力して、登校は校長と生徒指導担当が自転車で見回り、下校は曜日ごとに担当学年が下校指導を継続して行う。 ・毎朝、校内放送で副校長が安心・安全な学校生活を送るように声掛けを継続する。 ・「地区協議会」の学校行事(交通安全)への参加。 ・児童の委員会活動で意識の高揚を図る。	保護者:86.0p 教職員:85.0p 児童:89.4p 保護者:88.2p 教職員:90.2p	A	・学校だより、学級通信で子どもの様子を発信している。 ・ホームページの担当が各学年団に声を掛け、ホームページの更新が短期的にできるようになってきている。今後は掲載内容の計画を立てるようにする。 ・児童の委員会活動で安全な学校生活を送るために、当番で声掛けをしたりポスターを作成したりしている。 ・下校後も安全な生活を送ることができるよう児童や保護者の意識を高める呼び掛けをしていく。	保護者:85.0p 教職員:86.4p 児童:89.0p 保護者:87.8p 教職員:93.5p	A	・学校だよりは月に2〜3号、学年だよりは毎月、学級だよりは学級によって差があるが12月までで平均18号(多い学級は149号)を紙媒体で発行し児童や保護者、学校だよりについては評議員や学校支援ボランティアに宛てて子どもの様子を発信している。 ・ホームページでも学校や学年の出来事更新している。来年度に向けて、計画的な更新を目指して計画中有る。 ・積極的な生徒指導を行うために登下校の指導を継続的にやっている。また、学校支援ボランティアの熱心な活動にも支えられて、登下校での大きな事故はない。 ・教職員からの指導だけでなく、廊下歩行や休み時間の安全な生活について、児童会の働きかけにより改善しようとしている。 ・校内ルールやいじめ防止基本方針等もホームページに掲載して、学校での安全確保の方針について発信している。 ・年度更新が必要な事柄について失念することなくできるように引き継ぎをしたい。	自己評価は適切である。地域と連携したきめ細やかな取り組みについて評価することができる。また、これらの取り組みを保護者と共有することができるような方策についても検討していただきたい。さらに、児童が自ら課題意識をもち、課題改善のための主体的な活動につながる取り組みを期待したい。